

男女共同参画

について考える

『男女共同参画』・・・皆さんはこの言葉を聞いたことがありますか。

なかなか聞きなれないと思いますが、今、この「男女共同参画」が社会に必要となっています。

今回は、その必要性について、基本的な内容をふまえながら、皆さんも一緒に考えてみましょう。

シンボルマーク



男女共同参画

『男女が手を取り合っている様子をモチーフにし、互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いが込められています。』

内閣府男女共同参画局が、平成21年に男女共同社会基本法制定10周年を迎えるあたり作成しました。

「男女共同参画」 ってなに？

そもそも「男女共同参画」とは、政府が平成に入ってから採用した「男女平等社会」の理念で、「男女がお互いを認めあい、責任も分かち合いながら、性別にかかわらずあらゆる社会に参加する」とことと考えられています。

平成11年に施行された男女共同参画社会基本法には、「男女共同参画社会」を「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されています。



「男女共同参画」の 視点からみた国内の現状

国の第3次男女共同参画基本計画には、男女共同参画社会の実現によりめざすべき社会として、例えば「**固定的性別役割分担意識**(※)をなくした男女平等の社会」と示されていますが、これまで実現のために様々な取組が行われてきたにも関わらず、依然として全国的に固定的性別役割分担意識に肯定的な傾向にあります。その背景には、社会がつくりあげた社会的性別「ジェンダー」が影響しています。

国内の現状としては、男女の経済力の格差や社会的地位の差など「男性優位」「男性中心」の社会構造、女性を対等なパートナーと見ない(主に男性側の)女性差別意識などから、本来自由に選択できるはずの一人ひと

りの活動や言動が性別によって制限されていることが見受けられます。例えば、妻・母親が働く意思を持っているにもかかわらず、夫・父親の家事等への協力がないためにそれが叶わない、というようなことです。

※固定的性別役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」というような、性別により役割や立場を割り振る、という意識。



「男女共同参画」の 必要性

少子・人口減少社会の進行や高齢社会の到来など、私たちの生活を巡る環境の大きな変化に対応するためには、まずは、一人ひとりが持っている「固定的性別役割分担意識」を改め(なくし)、そこからつくられた社会の制度・慣行・慣習を見直すことが必要です。

男性も女性も、生活者であり労働者です。家庭で、学校で、職場で、地域で、それぞれの個性と能力を発揮できるような社会をつくるために、「男女共同参画」という理念を理解し一人ひとりが実践していくことが非常に重要なのです。